

作業を省力化

ドローンで稲わら腐熟促進剤を散布

11月5日(火)

当 JA は、生産者の作業の省力化を進めるためドローンの有効活用を先進的に研究しており、このほど太子町の圃場 20 アールで稲わら腐熟促進剤の散布を試みました。

通常ならば、10 アールあたり 40kg の石灰窒素を背負い式

動力散布機などを使って人的に散布を行っています。しかし、今回の使用した試験剤

「ファイン」は 10 アールあたり 5kg で効果を得ることができ、ドローンで散布することによって 10 アールあたり 4 分ほどで完了しました。

生産者は「かなりの省力化を図ることができた」と喜ばれました。

オペレータを務める南営農経済センターの田中章吾センター長は、「石灰窒素を通常散布したほ場と比較させてもらい、今後のドローンの活用につなげていきたい」と話しています。



ドローンで稲わら腐熟促進剤を散布しました。10 アールあたり 4 分ほどで完了。